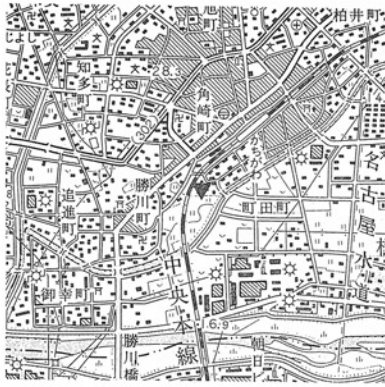


愛知・勝川遺跡 からがわ



(名古屋北部)

勝川遺跡は、春日井市南西端の鳥居松段丘面縁辺部及びその南の段丘下の庄内川沖積面に立地する。段丘上には藤原宮同範瓦が出土すること、著名な勝川廃寺が所在する。木簡は勝川廃寺南方の段丘下を西へ流れる旧地蔵川の北肩から出土した。他に奈良末～平安時代中期に属する人形七点・墨書土(陶)器約五〇点などが出土している。うち、人形二点には、一点は胸部に、

- 1 所在地 愛知県春日井市勝川町・長塚町
- 2 調査期間 一九八七年(昭62)四月～一〇月
- 3 発掘機関 愛知県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 平野 清・森 勇一・樋上 昇・丹羽 博
- 5 遺跡の種類 河川跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

他は背部に一字ずつ未判読の文字がある。また、墨書土(陶)器の内容には、吉祥句・人名・記号等が多く認められる。黒笹九〇号窯式期の陶器には「寺」「別院」などの墨書があり、勝川廃寺に関連するものと考えられる。木簡はこれらのうち、黒笹九〇号窯式期の灰釉陶器と相伴して出土しており、時期は九世紀後半頃とみられる。

8 木簡の釈文・内容

(1) $\left[\begin{array}{c} \text{虎村カ} \\ \text{五斗} \end{array} \right] \times$

(90) × 25 × 3 0.29

端部に切り込みが入ることと五斗の記載から米の荷札木簡と思われる。「虎村」については地名・人名の両方が考えられる。

なお、木簡の釈読には奈良国立文化財研究所加藤優氏にお世話になった。

9 関係文献

愛知県埋蔵文化財センター『年報 昭和62年度』(一九八八年)

(樋上 昇)

